

# 2014年8月期 上期業績 および通期見通し

**岡崎 健**

---

株式会社ファーストリテイリング  
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。  
私から、2014年8月期上期の業績、および  
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 2014年8月期 上期実績	P3	～	P16
II. 2014年8月期 通期業績予想	P17	～	P22
III. ご参考資料	P23	～	P24

**【資料文中のグループ事業の表示について】**

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2013年8月期以降)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、  
ジーユー事業、J Brand事業が含まれています。

**【将来予測に関するご注意】**

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

## 【連結】2014年8月期 上期実績

**売上高： 7,643億円 (前年同期比 +24.3%)**  
**営業利益： 1,032億円 (前年同期比 +6.8%)**  
**経常利益： 1,075億円 (前年同期比 ▲0.2%)**

	2013年8月期		2014年8月期 上期		
	上期実績	直近予想 (1/9時点)	実績	前年同期比	直近予想比
売上高 (売上比)	6,148 100.0%	7,285 100.0%	<b>7,643</b> 100.0%	+24.3%	+4.9%
売上総利益 (売上比)	3,039 49.4%	3,705 50.9%	<b>3,767</b> 49.3%	+24.0% ▲0.1p	+1.7% ▲1.6p
販管費 (売上比)	2,073 33.7%	2,665 36.6%	<b>2,735</b> 35.8%	+32.0% +2.1p	+2.7% ▲0.8p
営業利益 (売上比)	966 15.7%	1,040 14.3%	<b>1,032</b> 13.5%	+6.8% ▲2.2p	▲0.8% ▲0.8p
経常利益 (売上比)	1,077 17.5%	1,035 14.2%	<b>1,075</b> 14.1%	▲0.2% ▲3.4p	+3.9% ▲0.1p
純利益 (売上比)	654 10.6%	635 8.7%	<b>645</b> 8.4%	▲1.4% ▲2.2p	+1.7% ▲0.3p

単位：  
億円

3

2014年8月期上期の連結業績ですが、  
 売上高は7,643億円、前年同期比24.3%増、  
 営業利益は1,032億円、同6.8%増、  
 経常利益は1,075億円、同0.2%減、  
 純利益は645億円、同1.4%減となりました。

次のスライドで要因をご説明いたします。

## 【連結】上期業績の主な増減

**売上高 7,643億円(前年同期比 +24.3%、1,495億円増収)**

- ・ 海外ユニクロ事業 +1,013億円
- ・ グローバルブランド事業 +296億円
- ・ 国内ユニクロ事業 +183億円

**売上高総利益率49.3%(前年同期比 ▲0.1p)**

**売上高販管費比率35.8%(前年同期比 +2.1p)**

- ・ 国内ユニクロ事業 +1.3p
- ・ 海外ユニクロ事業の拡大

**営業利益1,032億円、前年同期比6.8%増**

**経常利益 1,075億円、前年同期比0.2%減**

- ・ 円安により為替差益47億円を計上も、営業外収支は67億円の減少

**純利益 645億円、前年同期比1.4%減**

4

まず売上高ですが、7,643億円と、前年同期比24.3%増、金額では1,495億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が1,013億円の増収、グローバルブランド事業が296億円の増収、国内ユニクロ事業が183億円の増収となっております。

売上高総利益率は49.3%と、前年同期比0.1ポイント低下いたしました。

売上高販管費比率は35.8%と、前年同期比2.1ポイント増加しております。主に、国内ユニクロ事業の売上高販管費比率が1.3ポイント上昇したこと、販管費比率の高い海外ユニクロ事業の構成比の拡大によるものです。

これらの結果、営業利益は1,032億円と同6.8%増の増益となっております。

経常利益につきましては、1,075億円と同0.2%減となっております。この上期では、2月末の為替レートが1ドル102円と8月末の98円に比べ若干の円安となったことから、為替差益47億円を計上いたしました。ただし、前年の上期では、為替差益が111億円だったことから、前年同期比で営業外収支が67億円減少し、経常利益は減益の結果となりました。

純利益は645億円、前年同期比1.4%減となりました。

今期は営業外の為替差益が前期より大幅に減少したことから、経常利益と純利益については、予想通り減益となりましたが、海外ユニクロの好調により、営業利益ベースでは増益を達成しております。

## 【セグメント別】上期実績

単位：億円

		2013年8月期		2014年8月期	
		上期実績	上期実績	前年同期比	
国内ユニクロ事業	売上高	3,872	4,055	+4.7%	
	営業利益 (売上比)	689 17.8%	702 17.3%	+1.8%	▲0.5p
海外ユニクロ事業	売上高	1,306	2,320	+77.6%	
	営業利益 (売上比)	160 12.3%	280 12.1%	+75.1%	▲0.2p
グローバルブランド事業	売上高	957	1,253	+31.0%	
	営業利益 (売上比)	85 9.0%	92 7.4%	+7.7%	▲1.6p

注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。  
売上高には内部取引は含まれておりません。

グループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

国内ユニクロ事業の売上高は4,055億円、営業利益は702億円、  
海外ユニクロ事業の売上高は2,320億円、営業利益は280億円、  
グローバルブランド事業の売上高は1,253億円、営業利益は92億円と、  
と全セグメントで増収増益を達成いたしました。

## 【国内ユニクロ事業】上期実績

上期は増収増益も直近計画から下振れ

単位：億円

	2013年8月期	2014年8月期 上期			
	上期実績	直近予想 (1/9時点)	実績	前年同期比	直近予想比
売上高 (売上比)	3,872 100.0%	4,110 100.0%	4,055 100.0%	+4.7%	▲1.3%
売上総利益 (売上比)	1,809 46.7%	1,995 48.5%	1,926 47.5%	+6.5% +0.8p	▲3.4% ▲1.0p
販管費 (売上比)	1,119 28.9%	1,235 30.0%	1,224 30.2%	+9.4% +1.3p	▲0.9% +0.2p
営業利益 (売上比)	689 17.8%	760 18.5%	702 17.3%	+1.8% ▲0.5p	▲7.6% ▲1.2p

注：売上高には内部取引は含まれておりません。

6

ここからは、各事業についてご説明いたします。

まず国内ユニクロ事業の上期の業績ですが、先程申し上げた通り、売上高は4,055億円、前年同期比4.7%増、営業利益は702億円、同1.8%増と、増収増益となりました。

ただし、1月9日の直近予想に比べて、売上高、営業利益ともに計画を下回る結果となっております。

詳細については、次のスライドでご説明させていただきます。

### 上期 売上高 4,055億円 (前年同期比+4.7%)

- ・既存店売上高: 前年同期比+2.2% (客数+0.5%、客単価+1.7%)
- ・スクラップ&ビルドによる店舗の大型化
- ・2月末店舗数831店舗、前年同期比+3店舗

- ・販売動向: 12月後半から本格的に気温が低下したことにより、ウルトラライトダウン、ヒートテック、フリースなどの冬物コア商品の販売が好調。特に、年末年始セールが好調で、1月の既存店売上高が大幅増
- ・客単価: ヒートテックの販売好調で買上げ点数が増加

直営既存店 前年比	2014年8月期						
	1Q	12月	1月	2月	2Q	上期	3月
売上高	▲0.3%	+1.1%	+15.0%	+0.8%	+5.0%	+2.2%	+0.6%
客数	▲0.8%	▲1.0%	+9.9%	▲4.2%	+1.8%	+0.5%	▲6.4%
客単価	+0.5%	+2.1%	+4.6%	+5.2%	+3.2%	+1.7%	+7.5%

7

まず、売上高の状況についてご説明いたします。

売上高が前年同期比4.7%増となった要因は、既存店売上高が2.2%増になったこと、スクラップ&ビルドによる店舗の大型化により1店舗当たりの売上高が増加したこと、2月末の直営店舗数が前年同期末比で3店舗増加したことによります。

既存店売上高2.2%増の内訳は、客数で0.5%の増加、客単価で1.7%増加となります。

12月後半から本格的に気温が低下したことにより、ウルトラライトダウン、ヒートテック、フリースなどの冬物コア商品の販売が好調に推移いたしました。特に、年末年始セールが好調だったため、1月の既存店売上高が大幅に増加いたしました。

客単価は、ヒートテックの販売が好調で、買上げ点数が増加したことなどにより、上期ではプラス1.7%となりました。

また、すでにお知らせしている通り、3月は後半からの気温上昇により春物商品が動き始めたことで、既存店売上高は0.6%の増収となっております。

**上期 売上高総利益率 47.5% (前年同期比+0.8p)**

- ・従来ベースでの売上高総利益率は前年同期比▲0.5ポイント、直近予想も下回る
- ・12月末から値引を強めたこと、シーズン末に向けた在庫処分を実施した影響

次に、国内ユニクロ事業の上期の売上高総利益率ですが、47.5%と前年同期比0.8ポイント改善いたしました。

なお、内部取引の影響を除いた従来ベースでの粗利益率は前年同期比0.5ポイント低下、直近予想に対しても下回る水準となりました。

粗利益率が前年比で低下したのは、第1四半期には、値引きコントロールにより、前年比で改善することが出来たものの、第2四半期では、特に12月末から値引を強めたこと、シーズン末に向けた在庫処分を実施したことによります。



上期 売上高販管費比率 30.2% (前年同期比+1.3p)

単位：億円

	2013年8月期 上期		2014年8月期 上期			
	実績	(売上比)	実績	(売上比)	増減	(売上比)
販管費合計	1,119	28.9%	1,224	30.2%	+104	+1.3p
人件費	315	8.1%	359	8.9%	+44	+0.8p
広告宣伝費	162	4.2%	177	4.4%	+15	+0.2p
賃借料	246	6.4%	264	6.5%	+17	+0.1p
減価償却費	33	0.9%	36	0.9%	+2	+0.0p
その他経費	360	9.3%	385	9.5%	+24	+0.2p

9

上期の販管費は1,224億円と、前年比104億円増加いたしました。売上高が計画に対し下振れたことにより、金額ベースでは計画比で約10億円下回っております。

売上高販管費比率は30.2%と、前年同期比1.3ポイント上昇いたしました。人件費比率で0.8ポイント、広告宣伝費比率で0.2ポイント、賃借料比率で0.1ポイント、その他経費比率で0.2ポイント上昇しております。

人件費比率の上昇は、主に、パート・アルバイトなどの店舗人件費を増やした影響によります。また、販促活動を強めたことにより、広告宣伝費比率も若干上昇しております。その他経費比率の上昇は、定番商品の在庫増による物流費、倉庫費の増加によるものです。

### 計画を上回る大幅な増収増益

- ・グレーターチャイナ、韓国、米国、欧州が計画を上回り、増収増益
- ・東南アジア事業はほぼ計画どおり、順調に推移
- ・2月末店舗数：534店舗（91店舗出店、3店舗閉店）

単位：億円

		2013年8月期	2014年8月期	
		上期実績	上期実績	前年同期比
海外ユニクロ事業	売上高	1,306	2,320	+77.6%
	営業利益	160	280	+75.1%
	(売上比)	12.3%	12.1%	▲0.2p

10

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上高は2,320億円、前年同期比77.6%増、営業利益は280億円、同75.1%増と計画を上回る大幅な増収増益を達成いたしました。

特に、グレーターチャイナ、韓国、米国、欧州の業績が計画を上回り、増収増益に寄与いたしました。東南アジア事業は、ほぼ計画通り、順調に推移いたしました。

海外ユニクロ事業全体では、この上期に91店舗を出店、3店舗を閉店したことにより、2月末の店舗数は534店舗となりました。

### 各エリアの業績トレンド

- ・グレートチャイナ：計画を上回る大幅な増収増益

中国は順調な出店と既存店の2桁増収により好調な業績を維持  
台湾は大量出店した店舗が総じて好調、増収増益  
上期では46店舗を出店(1店舗閉店)、2月末325店舗

- ・韓国：計画を上回る大幅な増収増益

ニット、フリース、ヒートテック、ウルトラライトダウンなどの冬物コア商品の  
販売が好調、既存店は2桁増収を達成、2月末116店舗

- ・東南アジア地区：計画通りの増収増益

上期では19店舗を出店、58店舗まで拡大

- ・米国：赤字幅は前年比で大幅に縮小

グローバル旗艦店を含むニューヨークの3店舗の売上が、2桁増収と回復  
2013年秋オープンしたショッピングモールの10店舗も順調

- ・欧州：計画を上回り増収増益

英国、フランス、ロシアともに既存店売上高が2桁の増収

次に、各エリアの業績トレンドですが、

中国、香港、台湾といったグレートチャイナでは、計画を上回る大幅な増収増益となりました。中国では、順調な出店に加え、既存店売上高の2桁増収により、好調な業績を維持いたしました。台湾では、大量出店した店舗が総じて好調な業績となり、増収増益となりました。上期ではグレートチャイナ全体で46店舗を出店、1店舗を閉店し、2月末の店舗数は325店舗に達しております。

韓国では計画を上回る大幅な増収増益となりました。ニット、フリース、ヒートテック、ウルトラライトダウンなどの冬物コア商品の販売が好調で、既存店売上高は2桁増収を達成いたしました。また、上期では13店舗を出店、2店舗を閉店し、2月末の店舗数は116店舗まで拡大しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシアといった東南アジア地区については、計画通りの増収増益を達成いたしました。上期では19店舗を出店し、2月末で58店舗まで拡大しております。

米国は、赤字幅が前年比で大幅に縮小いたしました。これは、グローバル旗艦店を含むニューヨークの3店舗の売上が、2桁増収と回復したこと、また、2013年秋にオープンしたショッピングモールの10店舗も順調な業績となったことによります。

欧州事業も、英国、フランス、ロシアともに既存店売上高が2桁の増収と、計画を上回り、増収増益となりました。欧州では、上期に、3店舗を出店し、2月末の店舗数は18店舗となっております。

## 香港証券取引所へHDR(香港預託証券)を上場



3月5日、現地時間9時30分より  
売買が開始されるとともに、  
ドラを打ち鳴らす、柳井会長兼社長



上場セレモニーにて、「福(服)を呼ぶ  
招き猫」を香港証券取引所のチャールズ・  
リーCEOへ手渡す

12

ご存知の通り、3月5日に香港証券取引所へ、HDRをセカンダリー上場いたしました。

香港に上場した目的は、成長著しいグレーターチャイナおよび東南アジア地域において、ファーストリテイリング、ユニクロ、グループブランドの認知度を向上し、同地域での存在感を高めていくこと、また、事業成長に伴い、グローバルに投資家層を拡大していくこと、グローバル企業として、財務内容や経営状況の透明性を高め、経営の質を向上していくことです。

## 営業利益は若干計画を下回る

- ・ ジュー事業：増収増益も、計画を若干下回る  
 上期の既存店売上高は増収も、冬のキャンペーン商品のアウトター類などが計画未達で、在庫処分による値引き販売が増加
- ・ セオリー事業：営業利益は計画を若干下回り減益  
 米国の景気低迷により、百貨店販売が不調、および日米で経費増
- ・ J Brand事業：計画を下回る
- ・ コントワー・デ・コトニエ事業：増収増益、計画を上回る
- ・ プリンセス タム・タム事業：ほぼ計画通り

		2013年8月期	2014年8月期		単位：億円
		上期実績	上期実績	前年同期比	
グローバルブランド事業	売上高	957	1,253	+31.0%	13
	営業利益	85	92	+7.7%	
	(売上比)	9.0%	7.4%	▲1.6p	

グローバルブランド事業の上期の売上高は1,253億円、前年同期比31.0%増、営業利益は92億円、同7.7%増と増収増益を達成いたしました。売上高はほぼ計画通りですが、営業利益は若干計画を下回っております。

ジュー事業は、増収増益を達成いたしました。売上高、営業利益ともに計画を若干下回る結果となりました。上期の既存店売上高は増収となりましたが、アウトター類など冬のキャンペーン商品の一部が計画未達となり、在庫処分による値引き販売が増えたことで営業利益は計画を下回りました。店舗数は、上期に40店舗を出店、4店舗を閉店し、2月末の店舗数は計画通り250店舗となりました。

セオリー事業は、増収となったものの、営業利益は計画を若干下回り減益の結果となりました。これは主に、米国の景気低迷により、百貨店販売が不調だったこと、および日米で広告宣伝費や人件費などの経費が増えたことによります。

J Brand事業も米国の景気低迷の影響を受け、計画を下回る業績となっております。

コントワー・デ・コトニエ事業は、増収増益と計画を上回る結果となりました。プリンセス タム・タム事業は、ほぼ計画通りの業績となりました。

## 【連結】2014年2月末 B/S

単位：億円

	2013年2月末	2013年8月末	2014年2月末	前年同期末比
総資産	8,064	8,858	9,485	+1,420
流動資産	5,774	6,401	6,903	+1,128
固定資産	2,290	2,456	2,581	+291
負債	2,660	3,062	3,110	+449
純資産	5,404	5,795	6,374	+970

14

次に2014年2月末のバランスシートの説明をさせていただきます。

総資産は9,485億円と前年同期末比1,420億円増加いたしました。  
これは、流動資産で同1,128億円、固定資産で同291億円増加したためです。  
これを受けて、純資産は同970億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

## 【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

**流動資産の増加 +1,128億円 (5,774億円 ⇒ 6,903億円)**

- ・現金・預金及び有価証券の増加 +164億円 (3,421億円 ⇒ 3,586億円)
- ・たな卸資産の増加 +538億円 (1,096億円 ⇒ 1,635億円)
  - 【国内ユニクロ事業】+193億円  
店舗什器の高層化による店頭在庫増、通年で販売する定番商品の増加
  - 【海外ユニクロ事業】+283億円 店舗数が前年同期末比で175店舗増加
  - 【グローバルブランド事業】+28億円  
ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増
- ・為替予約勘定: +295億円 (資産809億円 ⇒ 1,105億円)
  - 【国内ユニクロ事業】2月末為替レートが保有する為替予約の平均レートよりも円安ヘッジ会計適用のため損益への影響なし

**固定資産の増加 +291億円 (2,290億円 ⇒ 2,581億円)**

**有形固定資産の増加 +218億円 (826億円 ⇒ 1,044億円)**

【海外ユニクロ事業】店舗数が前年同期末比175店舗増 【グローバルブランド】同91店舗増

まず、流動資産が1,128億円増加した要因をご説明します。

現金・預金及び有価証券の合計額は3,586億円と、前年同期末比で164億円増加いたしました。これは、海外ユニクロ事業を中心に営業キャッシュ・フローが増加したことによるものです。

2月末のたな卸資産は1,635億円と、前年同期末比538億円増加しております。

国内ユニクロ事業の2月末在庫は同193億円増加いたしました。

これは主に、店舗什器の高層化による店頭在庫の増加、および、通年で販売する定番商品を増やしたことによります。

海外ユニクロ事業の在庫は、前年同期末比で283億円増加しております。

これは、2月末の店舗数が同175店舗増えたことによります。

グローバルブランド事業の在庫は、同28億円増加しております。

これは、ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したことによります。

為替予約勘定は、資産側で1,105億円と前年同期末比295億円増加いたしました。

国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。2月末の為替レートが、保有する為替予約の平均レートより円安になったことから、為替予約が増加いたしました。

なお、ヘッジ会計を適用していることから損益への影響はございません。

固定資産は、前年同期末比で291億円増加しております。有形固定資産は、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の店舗数がそれぞれ同175店舗、91店舗増加したことにより、同218億円増加いたしました。

## 【連結】上期 キャッシュ・フロー

単位：億円

	2013年8月期 上期累計	2014年8月期 上期累計	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,120	+1,036	
税金等調整前純利益	+1,065	+1,081	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費、のれんの償却額	+126	+169	
運転資金の増減額	+124	+12	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額
法人税等の支払い・還付	▲166	▲190	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲417	▲252	
有形固定資産の取得による支出	▲107	▲188	出店拡大に伴う投資
無形固定資産の取得による支出	▲27	▲29	システム投資など
連結範囲の変更を伴う 子会社株式取得による支出	▲267	-	前期はJ Brand 買収に伴う費用が発生
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲81	▲206	
長期借入れによる収入	+148	-	前期はJ Brand 買収に伴う借入れ
配当金の支払額	▲132	▲151	期末配当金1株あたり150円の支払
現金及び現金同等物の増加額	761	621	
現金及び現金同等物の期首残高	2,660	2,956	
現金及び現金同等物の期末残高	3,421	3,584	

16

次に、上期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,036億円の収入となりました。ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献1,081億円と収入が増加した一方で、法人税は190億円と支出が増加いたしました。

投資活動によるキャッシュ・フローは252億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、有形固定資産の取得で188億円、システム投資などによる無形固定資産の取得で29億円となっております。

なお、連結の設備投資額は261億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で34億円、海外ユニクロ事業で158億円、グローバルブランド事業で38億円、システム投資などファーストリテイリング本体で28億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、206億円の支出となりました。主な内訳としては、配当金の支払額151億円の支出となっております。

以上の結果、2014年2月末における現金及び現金同等物の期末残高は3,584億円となりました。



単位：億円

		2013年8月期	2014年8月期	2014年8月期	
		通期実績	直近予想 (1/9時点)	修正予想 (4/10時点)	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,833	7,200	7,150	+4.6%
	営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,145 15.9%	1,000 14.0%	+3.3% ▲0.2p
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	3,500	4,000	+59.2%
	営業利益 (売上比)	183 7.3%	280 8.0%	350 8.8%	+90.7% +1.5p
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,500	2,530	+22.7%
	営業利益 (売上比)	174 8.5%	240 9.6%	210 8.3%	+20.3% ▲0.2p

注 連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。  
売上高には内部取引は含まれておりません。

17

ここからは、2014年8月期の通期業績予想についてご説明いたします。

まず、グループ事業別の業績予想ですが、  
国内ユニクロ事業の売上高は7,150億円、営業利益は1,000億円、  
海外ユニクロ事業の売上高は4,000億円、営業利益は350億円、  
グローバルブランド事業の売上高は2,530億円、営業利益は210億円と  
いたします。

### 増収増益の予想

売上高 : 7,150億円(前期比 +4.6%)  
 営業利益 : 1,000億円(前期比 +3.3%)

単位: 億円

	2013年8月期 通期実績	2014年8月期		2014年8月期	
		直近予想 (1/9時点)	前期比	修正予想 (4/10時点)	前期比
売上高 (売上比)	6,833 100.0%	7,200 100.0%	+5.4%	7,150 100.0%	+4.6%
売上総利益 (売上比)	3,180 46.5%	3,500 48.6%	+10.1% (+2.1p)	3,430 48.0%	+7.9% (+1.5p)
販管費 (売上比)	2,211 32.4%	2,355 32.7%	+6.5% (+0.3p)	2,430 34.0%	+9.9% (+1.6p)
営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,145 15.9%	+18.2% (+1.7p)	1,000 14.0%	+3.3% (▲0.2p)

注: 売上高には内部取引は含まれておりません。

18

まず、国内ユニクロ事業ですが、上期の下ブレ分を反映させたのに加え、下期の店舗人件費および、物流費・倉庫費の増加を織り込んで、通期の営業利益は1,000億円、前年比3.3%増を予想しております。

なお、下期の既存店増収率は0.5%増、通期では1.5%増を見込んでおります。

2014年8月期末の店舗数は、フランチャイズ店を含み857店舗と、前期末比4店舗増の見込みです。

### 高い成長が続く見込み

売上高 : 4,000億円(前期比 +59.2%)

営業利益 : 350億円(前期比 +90.7%)

- ・ グレーターチャイナ、韓国、東南アジア地区で高い成長が続く
- ・ 米国では、赤字幅が縮小
- ・ 欧州は、ドイツのグローバル旗艦店関連コスト増も、通期では、前年並みのブレイクイーブンの見込み
- ・ 2014年8月期末の海外ユニクロ事業全体の店舗数は632店舗、前期末比+186店舗増

続いて、海外ユニクロ事業の通期の業績予想ですが、下期も高い成長が続く見込みです。

下期も引き続き、グレーターチャイナ、韓国、東南アジア地区で高い成長が続くこと、米国での赤字幅縮小が見込まれています。  
欧州については、4月オープン予定のドイツグローバル旗艦店関連コスト増を含んでも、通期では、前年並みのほぼブレイクイーブンの利益を確保できる見込みです。

2014年8月期末の海外ユニクロ事業全体の店舗数は、632店舗と、前期末比186店舗増加する見込みです。

## 約2割の増収増益の見込み

売上高 : 2,530億円(前期比 +22.7%)

営業利益 : 210億円(前期比 +20.3%)

### GUの通期売上高は1,000億円を超える見込み 期末店舗数は277店へ

- ・2014年春夏シーズンより、特にウィメンズ商品の企画・デザインを強化  
「マンスリー・トレンド・コレクション」を展開
- ・新TVCMキャラクターに、ファッションリーダーのローラさんを迎え、ファッションブランドとして事業を拡大中



現在、TVCM放映のローラさん

グローバルブランド事業の通期の業績は、上期の実績を加味し、約2割増の増収増益を見込んでおります。

ジーユーの通期売上高は、計画通り1,000億円を超える見込みです。出店数は計画通り順調で、2014年8月期末は277店舗、前年期末比で63店舗増加する見込みです。

ジーユーでは、2014年春夏シーズンより、特にウィメンズ商品の商品企画・デザインを強化し、毎月テーマが変わる、「マンスリー・トレンド・コレクション」を展開し始めました。

また、新しいTVCMキャラクターに、ファッションリーダーのローラさんを迎え、ファッションブランドとして、さらに事業を拡大していきたいと考えております。



## 【連結】2014年8月期 通期業績予想

**売上高** : 1兆3,700億円(前期比+19.9%)  
**営業利益** : 1,455億円(前期比 +9.5%)  
**経常利益** : 1,495億円(前期比 +0.3%)

	2013年8月期 通期実績	2014年8月期 直近予想 (1/9時点)		2014年8月期 修正予想 (4/10時点)	
			前期比		前期比
売上高 (売上比)	11,430 100.0%	13,220 100.0%	+15.7%	13,700 100.0%	+19.9%
売上総利益 (売上比)	5,640 49.3%	6,755 51.1%	+19.8% +1.8p	6,865 50.1%	+21.7% +0.8p
販管費 (売上比)	4,310 37.7%	5,195 39.3%	+20.5% +1.6p	5,410 39.5%	+25.5% +1.8p
営業利益 (売上比)	1,329 11.6%	1,560 11.8%	+17.4% +0.2p	1,455 10.6%	+9.5% ▲1.0p
経常利益 (売上比)	1,489 13.0%	1,550 11.7%	+4.0% ▲1.3p	1,495 10.9%	+0.3% ▲2.1p
特別損益	▲74	▲60	-	▲60	-
当期純利益 (売上比)	903 7.9%	920 7.0%	+1.8% ▲0.9p	880 6.4%	▲2.6% ▲1.5p

単位：億円

21

以上の結果、連結の通期の業績予想ですが、  
売上高は1兆3,700億円、前期比19.9%増、  
営業利益は1,455億円、同9.5%増を見込んでおります。

営業外収支につきましては、2月末の為替を前提とし、  
経常利益を1,495億円、前期比0.3%増、  
当期純利益は880億円、同2.6%減を見込んでおります。

## 2014年8月期 配当金予想

**中間配当金 150円を予定**  
**年間配当金 300円を予想**

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2012年8月期	130円	130円	260円
2013年8月期	140円	150円	290円
2014年8月期 ※	150円	150円	300円

※ 2014年8月期の中間配当については4月10日開催の取締役会にて決議しております。  
なお、業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に、2014年8月期の1株当たり配当金についてご説明いたします。  
本日の取締役会にて、中間配当金を1株当り150円と決議いたしました。  
これは従来予想から変更ございません。

また、期末配当金についても1株当たり150円と予想を変更しておりません。  
この結果、年間の配当金は1株当たり300円を予想しております。

以上で私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

## 連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	2013年 8月期 期末	2014年8月期末							
		上期実績(2014/2末)				通期 予想(2014/8末)			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,299	116	32	+84	1,383	244	54	+190	1,489
国内ユニクロ事業：※	853	25	29	▲4	849	53	49	+4	857
直営店	834	25	28	▲3	831	51	48	+3	837
大型店	177	15	1	+14	191	26	2	+24	201
標準店等	657	10	27	▲17	640	25	46	▲21	636
FC	19	0	1	▲1	18	2	1	+1	20
海外ユニクロ事業：	446	91	3	+88	534	191	5	+186	632
中国(除く香港)	225	36	1	+35	260	82	2	+80	305
香港	18	4	0	+4	22	5	1	+4	22
台湾	37	6	0	+6	43	10	0	+10	47
韓国	105	13	2	+11	116	30	2	+28	133
シンガポール	12	4	0	+4	16	6	0	+6	18
マレーシア	10	4	0	+4	14	11	0	+11	21
タイ	10	4	0	+4	14	10	0	+10	20
フィリピン	6	5	0	+5	11	11	0	+11	17
インドネシア	1	2	0	+2	3	3	0	+3	4
オーストラリア	0	0	0	0	0	1	0	+1	1
英国	10	0	0	0	10	0	0	0	10
米国	7	10	0	+10	17	16	0	+16	23
フランス	3	1	0	+1	4	3	0	+3	6
ロシア	2	2	0	+2	4	2	0	+2	4
ドイツ	0	0	0	0	0	1	0	+1	1
ジーユー事業	214	40	4	+36	250	77	14	+63	277
セオリー事業※	411	28	4	+24	435	47	5	+42	453
コントワール・デ・コトニエ事業※	375	4	5	▲1	374	8	10	▲2	373
プリンセス タム・タム事業※	150	3	2	+1	151	4	2	+2	152
J Brand事業	0	2	0	+2	2	6	0	+6	6
総合計	2,449	193	47	+146	2,595	386	85	+301	2,750

注：ミーナ事業、  
グラミンユニクロ事業は含まず  
※フランチャイズ店は含む



<ご参考資料>

## 為替レート、設備投資、減価償却費、のれん償却費

### 適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2014年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)	100.9	136.9	163.2	16.6	9.4
2013年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)	82.6	107.8	132.2	13.2	7.5
2014年8月期 通期予想レート(4/10時点)	98.5	135.0	158.0	16.0	9.3
2013年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	89.8	117.3	140.2	14.5	8.1

### 設備投資・減価償却費・のれん償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2014年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	261	138	30
2013年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	169	103	23
2014年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	584	262	60
2013年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	396	236	52

#### 設備投資内訳

2013年8月期 1H実績：国内ユニクロ 45億円、海外ユニクロ 69億円、グローバルブランド事業 29億円、システム他 23億円

2014年8月期 1H実績：国内ユニクロ 34億円、海外ユニクロ 158億円、グローバルブランド事業 38億円、システム他 28億円

2014年8月期 通期予想：国内ユニクロ 98億円、海外ユニクロ 320億円、グローバルブランド事業 103億円、システム他 57億円